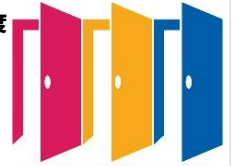




2020-2021 年度 藤沢ロータリークラブ週報



2020-2021 年度
RI テーマ



第 2780 地区
ガバナー 久保田 英男
第 3 グループガバナー補佐 市川 洋

■創立 / 昭和 29 年 6 月 3 日
■事務所 / 藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204 TEL : 0466-25-4000 FAX : 0466-26-9292 E-mail : info@fujisawa-rotary.com
■例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30
■第 67 代 会長 / 野口 捷代 幹事 / 小河 静雄
■例会場 / 湘南クリスタルホテル TEL : 0466-28-2111

NO. 16 第 3213 例会 2020 年 11 月 4 日 天候 晴れ

国歌「君が代」

ロータリーソング「我らの生業」

「四つのテスト」 勝又 茂成 会員

《ゲスト・ビジターの紹介》

ゲストスピーカー：湯浅 裕一 様

(公益社団法人藤沢市観光協会会長)

(紹介者：野口会長)

《会長報告》

- ・本日、大変良いお天気になりました。コロナの話ばかりですが、さわやかな気候を楽しみたいと思います。
- ・大野木会員の出してらっしゃる「ふじさわびと」の表紙のお 1 人が、本日の卓話ゲストです。大変素敵な笑顔でいらっしゃいます。後程、よろしくお願ひ致します。

《幹事報告》

- ・例会終了後、理事役員会がごぞいます。ご出席お願ひ致します。

《委員会報告》

- ・茂谷 浩子 クラブ広報・雑誌委員長

本日配布の「ロータリーの友」11月号にコロナ自粛中と現在のロータリークラブの活動状況についてのアンケートが掲載されています。ご一読下さい。

《スマイル報告》

野口 捷代 会長

今日は湯浅会長お忙しいのにありがとうございました。江の島のお話、楽しみにしております。

田中 正明 会員

湯浅会長 本日は当クラブへようこそ。

卓話 よろしくお願ひします。

椋梨 兼彰 会員

湯浅さま 本日はよろしくお願ひ致します。

本日は小指に「あさりの水煮」リングです。

川上 彰久 会員

湯浅さん本日の面白い卓話楽しみにしております。

出席報告 ()内は計算に用いた会員数
+[]は Zoom 出席者

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
10月21日	43(42)名	29名	13名	69.05%	1名	30名	71.43%
11月4日	43(42)名	27+[1]名	14名	66.67%			

小河 静雄 会員

湯浅会長 卓話たのしみにしています。

5万円ありがとうございました。

2回目もお願いします。

鈴木 大次 会員

湯浅様、本日は卓話ありがとうございます。

楽しみです。

《小話 3分間スピーチ》

川上 彰久 会員



今日卓話ゲストでお越しの湯浅さん、私と同じ1950年生まれの70歳です。先程、会長からお話野ありました、「ふじさわびと」の表紙、70歳の3人でそろえていただけたらいかがだったでしょうか。

先週は、Zoom出席でした。その時のお話をさせていただきます。例会に直接来るとZoom参加では、差があります。他にもいろいろな会合に参加しますが、その時は全員がZoomです。ロータリーの場合は、一人だけアウェイです。皆さんが楽しくお話ししている雰囲気、すごく伝わってきます。マイクを通した声の活舌もよるかと思いますが、聞き取りにくいことがあります。また、皆さんの懇談のマイクを通さない声は、話が分かりません。外国のレストランにいるようです。マイクを通して、話しかけていただくと一体感が出来てうれしいです。お時間の都合で会場に来られない場合は、スマホでも手軽に参加できますので、Zoom出席をお勧めいたします。やっていただくと、直接会場に参加する良さが改めてわかります。

ロータリーのは、メイクアップがあります。他のクラブの良さを知るとともに藤沢ロータリークラブの良さがもっとわかります。たまには、変わったことをやってみるのも良いのではないかと感じました。

《お祝い》

地区大会長寿会員のお祝い

泉 信子 会員 96歳

木島 英夫 会員 85歳

岩田 和 会員 85歳



本日ご出席の木島会へ記念品のお渡し

《卓話》

「歴史と観光の島 江の島」

公益社団法人 藤沢市観光協会

会長 湯浅 裕一（ゆあさ ひろかず）様

（紹介者：野口 捷代 会長）



今日のお話

- I. 八臂弁財天像
- II. 江島神社の歴史
- III. 江島縁起
鎌倉時代
江戸時代
- IV. 現在の江の島
昭和、平成時代の江の島
今年の江の島

まず八臂弁財天像のお話です。昨年三月に江島神社に所蔵されておりました八臂弁財天像が、島内で初めて国の重要文化財の指定をうけました。鎌倉時代の作品ですが、座ったお姿で高さ60cm程で、手が八本あり、それぞれの手に弓とか槍とか戦いの道具を持っています。裸弁財天で有名な妙音弁財天とともに神社境内の奉安殿に祭られています。鎌倉幕府の公式日記吾妻鏡によれば、源頼朝が当時、奥州で勢力を誇った藤原氏を討伐する為に岩屋洞窟に参り、戦勝祈願をし、この八臂弁財天を移しまつわったと言われています。

弁財天は福を施す神様といわれていますが、鎌倉時代には戦い・調伏の神様として始まり、その後は時代とともに少しずつ変化していき、富や商売の神様、そして音楽・芸芸などにもご利益があるといわれるようになりました。

次は江島神社の歴史ですが、それを語る原点が江島縁起にあります。西暦550年、欽明天皇の時代に突然、島が湧き出て、天女(弁財天)が舞い降りてきたとなっていて、古来から人々の興味をひき、霊地・聖地として名だたる宗教者達が注目した場所でした。また鎌倉時代後期の太平記によりますと、当時の将軍北条時政が江の島岩屋を参拝し、子孫繁栄を祈願した後、ついに美しい天女が現れ、時政の諸願成就を約束し、姿を大蛇に変え、海中に消えて行ったと記されています。その時、時政の手もとには大蛇の三枚の鱗が残され、これを北条家の家紋にしたということです。この天女が弁財天であり、それを引き継ぎ、現在も江島神社の社紋も三鱗であります。

江戸時代に入ると1600年6月徳川家康が江の島を訪れていますし、岩屋洞窟の弁財天に拝した記録もあります。その後、徳川將軍家と神社は密接な関係を代々続けます。江戸も中期になると一般の庶民の間にも、江島詣が次第に盛んになっていきます。島内の宿泊・旅籠は盛況を極め、そのころ島内には、22件の旅籠があり、そのうちの一軒が紀の国屋と名のり、私の先祖にあたります。

島内の三つの神社では、お開帳が人気を博し、6年に一度の巳年と亥年のご開帳に合わせて、講中と呼ばれる団体参拝がはやり始め、沢山の団体が江島詣に参加しました。その様子を描いた浮世絵に「相州江ノ島弁財天會長参詣群衆之図」があります。江の島を描いた浮世絵やその他の絵画は250点を越え、富士山の作品の次に多いということです。

現在、島内にある堀江商店さんは、当時の屋号は絵図屋と呼ばれ、当時、島内の案内地図を版行していました。

弁財天は芸芸の上達にもご利益が大きいということで歌舞伎関係の人達から寄進された石灯籠が中津宮に残っており、平成11年に開催された江の島大歌舞伎の際には、七代目尾上菊五郎、五代目菊之助の手型モニュメントが寄贈されました。

そしてお話は、江戸時代から一気に現代へととびますが、このような歴史を持つ江の島も1964年の東京オリンピックの頃から大きく様変わりしていきます。その時に車が入れる江の島大橋が完成しましたが、それまでは弁天橋一本だけでした。その弁天橋通行料を唱和35年までとられていました。もちろん全部、木でできていますから、道路面は木を一枚一枚並べてあり、少しずつ隙間があり、自分の足もとを真上から覗くと、下の海面が見えて、きれいな海に小魚が泳いでいるのを見ることができました。いい時代でした。その頃は、夏が一番の観光シーズンで、海水浴全盛の時代でした。一軒の海の家で、1日1000人以上のお客さんが入ったということで、ひとシーズン7、8月の2ヶ月で800万人以上の海水浴客がやってきました。昭和40年以降になると江の島大橋のおかげで、一年中車・バスを利用する観光客が増え始め、一年のうち、夏以外もオンシーズンが増えてきました。

平成に入り、14～15年ごろ、江の島植物園がリニューアルされ、コッキング苑となり、園内の展望台はシーキヤンドルとなりました。また、新江ノ島水族館も完成し、二つの施設が大人気となりました。さらに藤沢市観光協会のフィルムコミッション事業を立ち上げたのもこの頃でした。江の島周辺のテレビ、映画の撮影を誘致して(全国に先がけての事業でした)、うまく全国各地に配信され、観光地江の島が全国区になりました。また、湘南の宝石実行委員会が発足して、今や大人気のイルミネーション事業が始まり、今までの冬場の出が少ないシーズンにも、お局様がこれ目なくやってくるようになりました。昭和30年代のころは、夏が唯一の観光シーズンだったわけですが、今や一年中(官民一体の様々な観光施設の結果)平均してにぎやかな江の島となりました。

とこ度がその順風満帆だった江の島・藤沢市の観光も今年に入りまして、コロナウィルス感染症の影響で甚大な被害を受けました。年が明けましたら、観光協会として早速観光業の回復に向けての事業をいち早くスタートする予定です。

それは冒頭の私のお話にも出てまいりましたが、鎌倉時代の吾妻鏡の中、頼朝が奥州の藤原氏を討伐する際、岩屋不動にお参りし、戦勝祈願をしたお話がありました。

このストーリーをいただいて、来年5月8日に江の島流鏝馬・武者行列を実施します。まず江島神社で神事を行ない、戦勝祈願をし(コロナに勝つ)、江の島の参道を頼朝を対象として鎧兜を着けた60人の武者行列パレードを行ない、片瀬の西浜の水族館前の砂浜にて流鏝馬を実施し、まさにコロナに勝つことを念頭に矢を放つということであります。来年5月8日は土曜日です。この日はぜひ皆様にも江の島においでいただき、華麗な歴史絵巻を堪能していただきたいと思います。

以上かけ足でお話して来ました。江の島は、大昔から弁財天に纏わる歴史に始まり、弁財天のおかげで江の島詣が確立され、現在もその弁財天の信仰の心意気がまだ脈々と続いておりますし、これから先もきっと受け継がれていくと思います。

皆様もこれからも何度も江の島を訪ねていただき、素晴らしい景観を楽しみながら、島内を散策していただき、弁財天と切っても切れない歴史を感じていただくことをお願いして、私の話を終わらせていただきます。



瀧澤会員、新幹線？の中から Zoom 出席でした。



本日のお料理
湘南クリスタルホテル名物！ カレーでした！

